いま求められるのはコロナ対策!
医療・福祉・教育の充実を!

大障教ニュース

大阪府立障害児学校教職員組合
大阪市天王寺区東高津町７－１１
府教育会館７０４号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

部内資料

みんなの声(＝住民投票)で、「大阪市」を守ろう!

大阪市を廃止・解体して４つの特別区に分割するいわゆる「都構想」にむけた「特別区設置協定書」が、８月２８日大阪府議会・９月３日大阪市会にて可決されました。これを受けて大阪市選管は、１０月１２日告示、１１月１日投票で２度目の「住民投票(大阪市住民による)」をおこなうことを決定しました。

「都構想」については、「一度だけ」「ラストチャンス」としておこなわれた２０１５年の住民投票できっぱりと否決されています(反対７０万５５８５票、賛成６９万４８４４票)。「住民投票よりコロナ対策」「大阪市を守ろう」の声を大きく広げることが求められます。

実現しても「都」にならない

住民投票は、「大阪市を廃止し特別区を設置する」に「賛成」か「反対」を自書する方式でおこなわれます。維新の会は「都構想」と言っていますが、現行法制度上、賛成が多数であっても「府」のままで、「都」にするためには国の法改正と府全体の住民投票が必要です。一方、大阪市はいったん廃止になれば、元に戻せません。１３０年余の歴史ある大阪市が消滅することになります。

財源のない「特別区」になり「住民サービス」の削減へ

特別区設置には、初期コスト、ランニングコストなど１５年間に１３００億円もの膨大な支出が必要となります。財政面では、大阪市解体で市民の税金の３分の２が府に上納され、国からの地方交付税も府に入ることになります。一方、府から「特別区」への財政調整交付金は、毎年度ごとに府議会で決定されるため、府の一存で減らせます。「特別区」の権限は一般の市町村以下となり、財政も権限もない特別区でこれまで大阪市が独自で実施してきた様々な住民サービス(こども医療費助成、敬老優待乗車証、重度障がい者医療費助成など)が低下するのは明らかです。

この間の批判を受けて、都構想推進派は、「住民サービスは維持する」と繰り返していますが、協定書では、「設置時は維持する」とする一方、「設置後は維持するよう努める」としています。しかし、実際に、「都構想」の先取りとして２０１６年４月におこなわれた大阪市立特別支援学校の府移管では、「水準は後退させない」と約束していたにもかかわらず、教育予算の削減や「実習助手」の大幅削減など、教育諸条件は大きく後退しました。

都構想のねらいはカジノ中心の大規模開発

維新政治の１０年余、大阪経済で伸びたのはインバウンド(訪日旅行客)だけです。そこに目をつけて、カジノ誘致、夢洲開発、「なにわ筋線」や「淀川左岸線延伸」などの鉄道・道路のインフラ整備、万博誘致などが「成長戦略」として計画されました。そして、政令指定都市である大阪市の莫大な予算を府が吸い上げ、この大規模開発の資金にあてることこそが「都構想」のねらいです。しかし、コロナ禍のもとでカジノ産業が危機となるなど、維新の会の成長戦略は破綻が必至です。

住民投票よりコロナ対策を!

新型コロナウイルスの感染拡大が続くなか、いま求められているのは、ＰＣＲ検査体制の拡充や医療現場の体制強化、国民のくらしと営業への支援などのコロナ対策です。「住民投票よりコロナ対策」『「都構想」より市民のいのち暮らしを守れ』の声を無視して住民投票をすすめようとする維新の会・「都構想」の本質と問題点を知らせ、「大阪市を守ろう」の呼びかけを広げることが重要です。

大障教は、百害あって一利なしの「都構想」を許さず、大阪市を守るために府民や教職員との対話に全力をあげます。

大障教ホームページアドレス　http://fc06331220171211.web2.blks.jp/　Eメール アドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp

書記局のひとりごと

上辺ばかりを撫で回されて～♪
急にすべてに嫌気がさした僕～は
僕の中に潜んだ暗闇を～♪

ミスチル「Ａｎｙ」の歌詞の冒頭だ。「撫でる」は肯定的な印象を受けるが、「撫で回される」となると、否定的な印象を受ける。日本語は難しい。ついこの間、気分を害することがあり、この歌詞を思い出した。

自分のことを他者に理解してもらうことには難しさがある。それは、他者がとらえる「自分」は、あくまで行動として表に現れた事実から、他者が「自分」を理解しているからだろう。

話は転じて、われわれ教員は、子どもの「上辺ばかりを撫で回して」、子どもを理解したつもりになっていないか。そうだとすれば、子どもにとっては迷惑な話ではないか。私が尊敬する茂木俊彦(二〇一五年九月二十五日没、元全障研全国委員長)は、「子どもの行動を観察しただけで、わかったつもりになってはならない」との趣旨の発言をしている。

ミスチルの桜井和寿は、「Ａｎｙ」の最後を次のように結んでいる。

また十二色の心で～
好きな背景を描きたして行く～♪
また描きたして行く～
そのすべて真実～♪

「十二色の心」、心に色があるとすれば、それはどんな色だろう。それらは混じり合い、より多様になるだろう。行動を観察する事は重要だが、子どもの「十二色の心」「できなさ」の中にある「本当のねがい」を理解しようとする教師でありたい。(久)

大障教定期大会 発言ダイジェスト（その5）

青年層の教職員もがんばっています！

四條畷校分会　正田代議員

四條畷校では、ベテランの先生方の姿がとても大きく頼もしいですが、若手もがんばっています。四條畷校には青年層の教職員がたくさんいて、昨年の夏ごろから毎週金曜日の放課後に同期で集まっています。子どものことを話したり、研修で学んだことを共有したり、内容は様々ですが、「今日はこんなことがあったで」「あの子は最近どう?」などと、みんなで集まり子どもの話やたわいもない話もできて、私にとってはとても大切な楽しい時間です。

3月のはじめには休校中の時間を利用して、勉強会をしようということになりました。同期の先生の授業実践と、退職されてから非常勤として四條畷校に来ていただいている大ベテランの先生を講師として、お話や教材を紹介していただくことになりました。当日はほとんどの若手の先生が参加してくれ、子どもを発達主体として教育活動を行っていく大切さを改めて学ぶことができた勉強会になりました。

私が尊敬している三木先生の本の中に、「子どもは発達の主人公として尊重されるべき存在であり、教育活動は誰の管理統制を受けることもなく、自由かつ創造的に行われるべきだ」という言葉がありました。そんな教育ができる環境をつぶさないよう、教員が協力できる、学びあえる、コミュニケーションがとれる職場づくりができるよう、私も四條畷校の一員として、活動していきたいと思います。

子どもたちが安心して過ごせる寄宿舎を

寄宿舎教員部　白木代議員

2018年度末に府教委から、「2019年度は寄宿舎舎食栄養士の配置について、寄宿舎設置3校で1人の常勤栄養士を配置する」と説明がありました。

当時、南視覚では舎食担当の常勤臨時技師1人、中央聴覚は非常勤栄養士が舎食担当として1人配置されていました。

大障教として、寄宿舎設置3校への栄養教諭複数配置を求める署名にとりくみました。大障教すべての分会から団体署名を集約し、寄宿舎設置3校は全教職員署名にとりくみました。私たちの運動の力で、2020年度は南視覚、北視覚の2校で1人の常勤栄養士、中央聴覚で週29時間の非常勤栄養士の配置が実現しました。

新型コロナによる休業措置からの学校再開に伴い、寄宿舎の再開に向け、どこをどのように消毒するのかなど、安全対策について検討を重ねてきました。生活の場でもあるので、歯磨き指導の場合はマスクとフェイスシールドをつけ手袋をはめる。入浴では浴室担当と脱衣場担当に分かれて対応する。空間の確保は1人一部屋ずつにし、みんなでテレビを見るときも2メートル以上離れるなどの対応をしています。中央聴覚ではコミュニケーションで欠かせない表情の読み取りがしやすいようにと、フェイスガードに工夫を加え、少しでも舎生に見えやすいようにしています。

寄宿舎の現状をしっかりと訴え、安全を確保し、安心して舎生が生活できる寄宿舎をどのようにつくっていくのかを今後も追求していきます。

ろう学校ブロック教研

ブロック別学習会シリーズ①

新型コロナウイルスの影響でなかなか学習会等のとりくみがむずかしい状況ですが、今年度も大障教としてブロック別学習会にとりくむことになりました。大障教ニュースで学習会の様子をシリーズでお知らせしていきます。第1回目は、ろう学校ブロックです。

重複障がい教育について学習を深めました

9月4日、たかつガーデンでろう学校の4校交流会を開催しました。今回は、新転任の先生にも聞いてほしい課題として「重複障がい教育」を取り上げました。13人が参加し、堺聴覚支援学校の佐々木淑子さんから中学部の生徒の現状と進路指導について報告してもらいました。進路に関しては、生徒や保護者の強い選択希望の一方で、聴覚高等支援学校が別の学校ということもあって、お互いに細かな情報が共有しにくいなどの課題も見えてきました。

「率直な話が聞けた」「情報交流できてよかった」「他校の様子を聞けてとても参考になった」など、参加者全員にとって有意義な時間でした。幼、小、中、高等部、専攻科まで設置している、ろう学校の魅力のひとつは、長いスパンで子どもの発達、成長を確認できることだと改めて感じました。

通学区域割りの変更がすすむ中、大阪4校がこうして学び合い、率直に交流する場は今後さらに重要になっています。コロナ禍で会場の定員制限から広く呼びかけができなかったことは残念でしたが、今回は対策を取りつつ継続開催できてよかったです。

間隔をあけて学習会にとりくみました